

役員名簿

理事・監事

(平成22年6月1日現在)

役職名	氏名	役職
理事長	持田 勲	工学博士 九州大学名誉教授 九州大学特任教授(炭素資源国際教育研究センター) (独) 科学技術振興機構研究成果活用プラザ福岡館長
副理事長	角 敬之	元福岡県環境部長
副理事長	松藤 泰典	工学博士 九州大学名誉教授 北九州市立大学副学長
常任理事	川野 田實夫	大分大学特任教授
常任理事	楠田 哲也	工学博士 北九州市立大学国際環境工学部教授 九州大学名誉教授
常任理事	西村 正幸	九州電力(株) 執行役員 環境部長
常任理事	百島 則幸	理学博士 九州大学アイソトープ総合センター教授
理事	浅野 直人	福岡大学法学部教授
理事	小山 次朗	農学博士 鹿児島大学水産学部教授・海洋資源環境教育研究センター長
理事	島岡 隆行	工学博士 九州大学大学院工学研究院教授
理事	関根 雅彦	工学博士 山口大学大学院理工学研究科教授
理事	早瀬 隆司	工学博士 長崎大学環境科学部教授
理事	松岡 信明	理学博士 当協会事業本部長
理事	矢野 健二	当協会経営本部長
理事	矢幡 久	農学博士 九州大学名誉教授 西日本短期大学緑地環境学科教授
監事	千葉 兆	(株) 福岡銀行監査役
監事	甲能 市郎	公認会計士 甲能公認会計士事務所

評議員・顧問

役職名	氏名	役職
評議員	池田 元輝	農学博士 九州大学名誉教授
評議員	内海 英雄	薬学博士 (独) 医薬品医療機器総合機構理事・審査センター長 九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点拠点長
評議員	薛 孝夫	農学博士 九州大学大学院農学研究院准教授
評議員	高木 直人	(財) 九州経済調査協会常務理事
評議員	中野 勝之	工学博士 福岡大学工学部教授
評議員	中村 明	九州電力(株) 執行役員 原子力管理部長
評議員	西田 哲明	理学博士 近畿大学産業理工学部教授・九州リエゾンセンター長
評議員	野中 敬正	工学博士 熊本大学名誉教授
評議員	速水 洋	工学博士 九州大学名誉教授
評議員	樋口 壯太郎	工学博士 福岡大学工学部教授
評議員	二渡 了	工学博士 北九州市立大学国際環境工学部教授
評議員	宮島 徹	理学博士 佐賀大学大学院工学系研究科教授
評議員	柳 哮	理学博士 九州大学名誉教授
顧問	竹下 健次郎	工学博士 九州大学名誉教授 元当協会副理事長

一 編集後記 一

わが国にとって2009年から2010年は、リーマンショックからのいくらかの経済的立ち直りと政権交代による政治的・社会的混乱の時期であるように思われます。国外では米国オバマ政権によるグリーン・ニューディール政策の推進に見られますように、環境、エネルギー、経済が不可分のものとして定着してきました。ただしグリーン・ニューディールの道が、技術的、経済的、政治的に極めて険しい道であるということは周知の通りであります。

この1年の環境を巡る問題として、2020年までの温室効果ガス排出削減中期目標策定、新エネルギー対策の促進、生物多様性への新たな取組み、越境汚染を含めた光化学オキシダント問題の復活、土壌汚染対策の強化などが話題になりました。中でも温室効果ガス排出削減ではコペンハーゲンでのCOP15などを通じて国際的な駆け引きがありましたが、いろいろな条件はあるもののわが国は1990年比25%削減に向けて歩み始めました。

(財)九州環境管理協会は創立以来40年目に入り、会誌「環境管理」も第39号を数えますが、皆様方のご協力を得て無事刊行することが出来ました。

巻頭言では、熊本大学長の谷口功先生に、国際化、環境、健康、観光などの視点から九州の特徴と将来像、そして大学の役割について述べていただきました。特に、国際化の重要性が高まる中で留学生の活用を推進するべきであるとのこと持論と、熊本大学での具体的な取組を紹介していただきました。

論説では、長崎大学環境科学部の早瀬隆司先生に、地域の環境政策や行動計画において地域住民を始めとする各主体がどのように係わるべきであるかという点について、新たな取組の事例を挙げて述べていただきました。「長崎県地球温暖化対策協議会」の成果は、他の自治体や当協会のような団体が同様の政策立案や計画策定を行う際の貴重な示唆を与えていると思います。

特別寄稿論文では、環境の社会科学と自然科学の分野で2つの貴重な寄稿を頂きました。まず、長

崎県環境保健研究センターの森淳子先生他の皆様から、同センターにおける環境マネジメントシステム「エコアクション21」の取組について、システムの構築、運用の内容を詳細に述べていただきました。このような内容について論文として整理した事例は全国的にもほとんどありませんので、環境マネジメントシステムを運用する事業者だけでなく、環境マネジメントシステムの研究者にとっても貴重な参考資料になると思います。つづいて、佐賀大学総合分析実験センターの兒玉宏樹先生に、海の生物生産に係わる基本的要素である溶存態コロイド有機成分のご研究を述べていただきました。有明海などの沿岸海域の環境保全は陸域の森林生態の保全と密接に関係していると言われ、その分野の貴重な研究成果が報告されています。

当協会の職員から4編の研究報告と2編の業務報告をさせて頂きました。下水処理による赤潮発生抑制の研究では、リンの高度処理の処理率を制御することで平常降雨時の赤潮発生抑制の可能性が示されました。アサリの資源保全に関する研究では、干潟でのアオサの発生(嫌気化)、海水温高温化、塩分濃度低下(降雨影響)などがアサリ幼生の着底や稚貝の生残・成長を阻害することが推測され、漁業資源保全のための貴重なデータが得られました。

嗅覚試験の研究では、臭気指数算出のための3点比較式臭袋法の試験参加者(パネル)の能力の違いが最終的な結果にどのように影響するかを様々な視点から試験して、今後正しい試験を行うための貴重な情報が得られました。業務報告では福岡県地球温暖化防止活動推進センター事業のうち、エコドライブの普及活動、及びフロン等に係わる地球温暖化防止キャンペーンの2件を報告していただきました。

本号の内容が関係の皆様のお仕事の一助となることを期待しています。最後に、ご寄稿頂きました先生方と職員の皆様に心から感謝申し上げます。

(編集担当：松岡)



セイタカシギ



ホオジロ

財団法人 九州環境管理協会 会報
「環境管理」第39号

平成22年6月1日発行

発行者 持田 勲

発行所 (財)九州環境管理協会

〒813-0004 福岡市東区松香台1-10-1

TEL (092) 662-0410(代)

FAX (092) 662-0411

印刷所 (有)一正堂